

第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト神奈川県大会

特別審査員講評一覧

アナウンス部門（小川 浩司様）

- ・皆さんとても良い声で聞きやすかったです。ただ、アニメの声優さんのような癖のある発声が散見されました。コミュニケーションの基本はいかに「自然体で伝えるか」「自然体でいられるか」です。作った声ではなく、親御さんから授かった素晴らしい声を活かして、素直な発声を心がけてください。
- ・そして「うまく読もう」とせず、「伝えよう」とう気持ちを忘れずに「伝えたい」と思う原点の気持ちを大切に日々練習してください。

朗読部門（秋元 紀子様）

- ・「ました。」「でした。」の語尾が消えてしまう人が多かったです。是非インナーマッスルを鍛えて、声を支えてください。
- ・始めから、勢いよく出て、息を使い切らないように。ひとつの内容は、大抵ひと息で言えるようになっていきます。また、最後の語尾にその人の思いが入るので、本当に大切です。
- ・あと、口呼吸の人も目立ちました。鼻呼吸にして、一文が終わったら口を閉じましょう。息を鼻から吸って、閉じた口から開けてください。開けたままの口からでは、曖昧な発音になります。滑舌悪く聞こえてしまいます。
- ・自分の朗読を動画で撮り、研究してみてください。では、楽しんで上手くなってくださいね。

ラジオドキュメント部門・研究発表部門（倉林 由男様）

- ・音の世界はとても面白いです。インタビューとナレーション、つまり「音」「声」と音楽でいくらでも人の心の中に入っていくことができます。映像がないぶん、より確かに人の心を動かすことさえできると思います。
- ・もっとこの分野にチャレンジしてください！取材をして、人と触れ合い、社会と触れ合い、それを音を中心にまとめていく。そして人に聞いてもらう。この面白さを、先輩たちは後輩に伝えていってください。

テレビドキュメント部門（秋山 発様）

- ・高校生らしい身近なテーマから最新の社会問題まで、バリエーションに富んだ作品が揃っていて大変レベルが高いと感じました。
- ・幅広い取材をしている作品が多い中、どんな人にどのようなメッセージを伝えたい、という点が整理されている作品がより、伝わるものになっていたように思います。

創作ラジオドラマ部門（東海林 桂様）

- ・高校生らしい作品テーマとは？
皆が全部同じようなテーマで作るわけではないが、タイトルとテーマに思わずドキッとさせられるような作品が増えてきました。
- ・ドラマは導入部分でどれだけ人を引き込むか？
8分の中で、どこに柱を持ってくるか？
ラジオドラマは聞いている人の頭の中に、思わず絵が見えるような作品作りを目指して欲しいです。

創作テレビドラマ部門（北川 敬一様）

- ・創作というのは「上手にウソをつく」ことだと思います。「ウソをつく」ために上手なウソの作品（小説、ドラマ、映画、舞台）に数多く触れてください。それが体育系なら、トレーニングだと思います。トレーニングと想像することを大切にしてください。